

議員（小川 保）

9番、小川 保です。失礼致します。

本日は、丸尾町長4期目のロードマップを、多度津町の今後についてなど、財政面からの考察を質問致します。去る2月11日の四国新聞に多度津町も子供医療費助成を高校卒業まで拡大する方針を固めたとありました。高校生でなくても働いている方たちも助成の対象だと、そういう風な記事でございます。年齢的には何歳まででしょうか。とにかく他の市町の動きを見るよりも先駆けて動き出したこと。子育て環境を厚くする施策として大いに歓迎したいと思えます。評価すべきだと考えております。ただ、その予算として1,200万円の財源が新たに必要になるとも書いてありました。昨年、発表された将来負担比率の悪化などが取り沙汰されておりますが、この事業による財政的影響は、いかがでございましょうか。よろしく申し上げます。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

小川議員の子ども医療費の助成拡大の対象年齢及び財政的影響についてのご質問に答弁をさせていただきます。今回の定例会に上程しております乳幼児等医療費の助成対象者の拡大につきましては、現行の「満15歳に達した日以後の最初の3月31日まで」から「満18歳に達した日以後の最初の3月31日まで」に引き上げようとするものでございます。なお、本町の乳幼児医療費の助成に関する条例におきまして、高校等の在学要件はありませんので、すでに就労等されている方も含め全ての高校卒業年齢までの方が対象となります。予算につきましては、令和4年4月1日現在の対象者627名に対し、令和3年度の中学生の医療費助成の実績額を当て嵌めて推計した額の8割を見込み、1,200万円と算出しております。また、現在、香川県議会2月定例会に上程されている令和5年度当初予算案において、乳幼児医療費支給事業県費補助金の対象年齢を現行の未就学児から小学校3年生までへの引き上げについて審議されております。採択されましたら、令和3年度実績より推計致しますと約700万円の補助が見込まれることから、差引致しますと本町の新たな財政負担は500万円でございます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

有難うございます。県の方も色々これについて考えて頂けると。多分この3月定例ですかね。決定してくれると有難いですよね。さて、財政について改めて確認をしておきます。将来負担比率という数値について、これは、簡単に言えば「多度津町の単独の借金の額」を「国が定める多度津町の財産規模」で割った数値のことで、ざっくり言えば「年収の何倍の借金があるのか」このような数値であります。令和3年度でいえば、91億円÷49億9千万円ですので、計算を致しますと182.4、年収の約1.82倍の借金があるということになると思えますが、そのような理解でよろしいでしょうか。お願いします。

総務課長（泉 知典）

小川議員の将来負担比率についてのご質問に答弁をさせていただきます。「将来負担比率」とは「一般会計が将来負担すべき実質的な負債が経常的な一般財源の規模に対してどの程度あるか」という将来財政を圧迫する可能性の度合いを示した指標です。「将来負担比率が182.4%」とは「経常的な一般財源の規模の約1.82倍の負債がある」ということであり、分かりやすく個人で例えれば、議員のおっしゃるとおり「年収の約1.82倍の借金がある」ということになります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ワースト4位、確かに衝撃的な数値ではありますが、これらのレベルは計算され始めた平成19年に遡りますと、その年は318.5で順位はワースト11位でした。つまり年収の3倍以上の借金があった訳ですが、そこから徐々に数値を下げ改善していき、そして学校や幼稚園の耐震化、白方小学校校舎、多度津中学校校舎、消防本部、新庁舎・交流センターなどの建設を行ったにも拘わらず、相対的な順位は別にして、100ポイント以上改善している訳であります。それは財政に関わる関係者一同の努力によるものであると評価してしかるべきだと思っております。

しかしながら、この「財政健全化の運営」はまだまだ、改革の途上です。終わった訳ではありません。そこで、現在の状況に目を移してみたいと思います。令和4年度の償還元金は約10億円でした。令和3年度と比較すると借金はそれだけ減りました。しかし、新たな借金、町債は約6億8千万円でしたので借金全体としては、約3億2千万円減ったということになります。また、財政調整基金の繰入金、つまり貯蓄の取り崩し額は、3月補正予算において約4億8百万円の予定ですので、令和3年度黒字分から計上されている積立額3億5千万円と差し引きして、基金残高は約5億8百万円減ることになります。従って、借金の減額と貯蓄残高の減少分の差額2億6千2百万円ほど令和4年度は財政的には改善されたということになります。これを令和5年度の当初予算に当て嵌めますと、償還元金は同じ約10億円です。町債つまり借金の増額は3億9千万円ですので、約6億1千万円借金は減ることになります。しかし貯蓄、つまり財政調整基金の繰入金つまり取り崩しが約6億円あり、令和4年度決算による積立額はこれからですけれども、結果、約1千万余りほどの財政的に良くなる予定と思うのですが、いかがでございましょうか。お願い致します。

総務課長（泉 知典）

小川議員の令和4年度最終予算及び令和5年度当初予算の町債残高と基金残高見込みについてのご質問に答弁をさせていただきます。議員ご指摘の一般会計町債残高と財政調整基金残高は財政状況を測る重要な指標です。令和4年度3月補正予算で計算しますと、令和4年度末一般会計町債残高は前年度から3.2億円減少して、148.6億円

となる見込みです。また、令和4年度末財政調整基金残高は前年度から0.6億円減少して、11.3億円となる見込みです。これらの町債残高3.2億円の減と基金残高0.6億円の減を合わせて考えますと、議員お見込みのとおり、一般会計において令和4年度は2.6億円ほど実質的な将来負担額が減少することになります。さらに実際の借入に合わせて、令和3年度からの繰越事業に係る借入額を加算し、令和5年度への繰越事業に係る借入額を減算しますと、新規借入額が0.4億円増加し、その分町債残高が増加することになりますので、実質的な将来負担額の減少額は、2.2億円ほどとなる見込みです。また、令和5年度の当初予算で同様に計算しますと、令和5年度末において一般会計町債残高は前年度比6.1億円減となる見込みで、財政調整基金残高は令和4年度の決算剰余金を積み立て、6億円取り崩すこととしておりますので、議員お見込みのとおり0.1億円に令和4年度決算剰余に係る積立金を加算した金額だけ実質的な将来負担額は減少することになります。なお、令和4年度の将来負担比率につきましては、分母の要素である標準財政規模の減少等により上昇する見込みとなっておりますが、こちらにつきましては、決算確定後、総務教育常任委員会でご報告させていただきます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

じゃあ、その数値については、また委員会で報告を受けることにしましょう。この状態を少しでも良くするためには、令和4年度決算で黒字になることが絶対条件ですが、黒字の部分が多度津町財政調整基金条例に定められた最低限の50%と言わずに60%でも70%でも多く積むことが肝要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。お願い致します。

総務課長（泉 知典）

小川議員の財政調整基金の積立額の増額についてのご質問に答弁をさせていただきます。財政状況の改善のためには、町債残高を減少させるだけでなく議員のおっしゃるとおり、財政調整基金残高を増加させることが肝要であると認識しております。財政調整基金は、決算剰余金などを積み立てておいて、財源不足や大規模災害などの不測の事態が発生した際に取り崩すことにより、年度間の財源を調整するための基金で、いわば町の貯金です。近年、大型普通建設事業の実施が続いたことに加え、人件費や公債費など経常的な歳出の増加等により生じた多額の財源不足を財政調整基金で補てんしており、積み立てた額よりも多く取り崩す状況が続いているため、財政調整基金残高は減少傾向にあります。このような状況の中、財政調整基金を増加させるには、まず歳出超過が続く現状を毎年度の収支が均衡する健全な状態に戻していく必要があると考えております。本町の決算の推移や歳出状況を検証し、今後の財政見通しを細かく立て、あらゆる歳入確保策を講じるとともに、新規事業の抑制等、歳出削減を行うことで、財政収支の均衡を図り、財政調整基金を少しでも多く積み増せるよう努めてまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

有難うございます。新規事業の抑制という風に今、回答を頂きました。もちろん新規事業だけでなしに既成事業、それから様々な団体への助成金、こういったものもたくさん出ております。以前私、この場で質問をさせて頂きましたけれどもね。その分を見直すということも非常に大切なことやと思っております。つまり、過去、今も続いておりますけれども、出しておる助成金をゼロベースで一旦見直しをするという。そういうきちっとした、襟を正したやり方をして欲しいなと思いません。これが、やはり財政を黒字化していくということの重要なポイントになろうかと思っております。よろしくお願い致します。さて、丸尾町長も昨年の12月議会で「財政状況の改善は最も重要な課題である」とお話しされておりました。私の質問の冒頭にお伺いした医療費助成の拡大は少子化対策の一環であります。それにつきましても今後どれだけの効果があるのか、どれだけ取り組めば宜しいのか未知の事柄でもあります。しかし、このジャンルは是非とも取り組んで頂きたいテーマであります。子育て世代を応援している町民、そして将来の多度津町を担うべき子供たちへの取り組みは重要な事柄だと思っております。それと合わせて道路や公園の整備・更新、下水道など老朽化したインフラ施設の修理・更新など市町村本来のベーシックな業務も非常に大切なことであり、着実に実施していかなくてはなりません。また、子供たちの将来を見据えた教育の充実も議論すべき大きな課題であります。そのような状況下で、どのように、どの分野にウエイトを置くのでしょうか。丸尾町長の今回の施政方針は、必要なやるべき事柄が沢山示されておりました。しかし、財政には限りがあり、そして改善していかなくてはなりません。どれも重要ですが、最重要課題として挙げるとすれば、まず、どのジャンルでしょうか。よろしく申し上げます。

町長（丸尾 幸雄）

小川議員の最重要課題についてのご質問に答弁をさせて頂きます。私の施政方針に掲げております重点施策3点は今年度の最重要課題ですので、優先順位をつけて選択と集中の考えの中で実施してまいります。

1つ目として、多度津の歴史、伝統、文化を生かして魅力ある町づくりと人づくりを進めていくことで、移住・定住・交流人口を増やしていこうとする人口減少対策としての地方創生事業を推し進めてまいります。これまでの北前船寄港地船主集落として、日本遺産に追加認定されました合田邸を中心とした12の施設の活用に加え、この界隈は旧こんぴら街道沿いの古い町並みが景観を形作っており、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けることも視野に入れて進めていこうと考えております。

2つ目として、少子高齢化対策で子育て支援の充実として、安全な場所に子どもを預けて、安心して仕事に就くことが出来るように子育て環境の整備を行い、再び子

育ての意欲を持ってもらうことや高齢者福祉の向上として、地域包括ケアシステムの充実を図っていくこととボランティアの気持ちを持って高齢者を見守り、支えて頂いている町民の皆様と「たどつささえあい笑顔の会」の輪を各校区に広げて、高齢者の見守りや支えあいの組織をこれまで以上に充実して、身体の不自由な方々や独居の高齢者の方々の生活の向上に努めてまいります。

3つ目として、財政健全化で、財政は全ての施策のベースとなりますので、財政が健全でなければ何も出来ないというのが、私の根本的な考えですので、財政規律は守りながら住民サービスの向上に繋がる施策を行ってまいりたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

町長、有難うございました。町長の最重要課題として3点を頂きました。1点目は重伝建など、そういうそれらの関連する事柄だと思いますよね。お金の使い方、やはりきちっと気をつけていかないといかんかなと思っております。かつて、ロナルド・レーガンアメリカ大統領ご夫妻が1983年11月1日に日の出町にある中曽根総理大臣の日の出山荘にて「日米首脳会談」が行われました。児童も保護者も学校も全ての町民が町を挙げた歓迎と3,600人の警護の中、胸襟を開いた有意義な会談だったそうです。大統領からの礼状に「町を挙げての温かい歓迎と素晴らしい景色が両国の歴史的絆の象徴となることを祈ります。」など、自然の景観の上品で素朴な風情を感謝と共に絶賛しておりました。私共の将来の参考になるんでないかなと思っております。丸尾町長の集大成とも呼べる今後の4年間です。歴史と文化の多度津町において、質のよい社会教育をフォローしながら、昔からこの町を支えてきた全町民のための生活をサポートして頂ければと切に思っております。奇を衒うことなく、自然の佇まいを残しておきたいものです。以上、9番、小川 保、質問を終わります。有難うございました。